水圏生物資源学特論（2単位）

担当者氏名　小林　万里

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

水産業とは野生生物を対象として行われる、最大の経済活動である。これらを将来的に維持していくためには、「海洋の生物多様性の保全」と「持続可能な漁業の推進」の2つの見方が必要である。そのためには、その複雑な海の生態系の仕組みについて学び、どのような国内、国際法制度のもとに、実際にどのような海洋や漁業管理をしているのか実際例を学びながら理解することを目的とする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載） ご自身のキーワードを記入してください

水産業	海洋保全	持続的利用	漁業管理
生態系	生態系	海洋生態系	捕鯨

◆授業の進行等について

	テ　ー　マ	内　　容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	ガイダンス	・授業内容の説明	◎ガイダンスでは、事前にシラバスを読むなどし、授業の目的を理解しておくこと。
2	知床世界自然遺産周辺海域の生態系保全と持続的漁業	・知床世界自然遺産周辺海域の生態系保全と持続的漁業はどのように成り立っているのかを理解する。	
3	海洋生態系	・恵み生み出す有機物生産やプランクトン群衆、物質循環からみた生物多様性を理解する。	◎配付資料を熟読し、２時間程度の復習と予習を行うこと。
4	海洋生態系の多様性	・海洋生態系の多様性の特徴とは何かを理解する。	
5	海洋生態系の生態系サービス	・閉鎖性水域の生物多様性、生態系サービスと空間スケール	◎課題の提出を求めるので、特に興味のある授業内容について配付資料のみならず、学術情報センターの図書や関連論文を読んで、課題の作成に備えること。
6	国連海洋法条約	・海洋の国際的管理の法的枠組みを理解する	
7	生物多様性条約	・生物多様性を基盤とする持続可能性を理解する	
8	統合的海洋管理	・海洋・沿岸域の総合的管理と漁業管理を理解する	
9	海洋環境保全政策	・自然公園における海洋環境保全の取り組みを理解する	
10	自然公園における海洋環境保全の取り組みを理解する	・日本の漁業制度の特徴を理解する。	
11	水産資源の管理	・水産資源の特徴を理解した上で、水産資源管理の手法と分類を理解する。	
12	漁業管理	・漁業管理の目的と評価について理解する。	
13	公海漁業	・国連海洋法条約体制について理解した上で、近年の展開について理解する。	
14	海洋保護区	・海洋保護区の定義と国際的な展開を理解する。	
15	捕鯨問題	・捕鯨の歴史と国際捕鯨委員会の変遷について理解する	

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）
書名／著者／発行所（発行年）

海洋保全生態学/白山義久・桜井泰憲・古谷研・中原裕幸・松田裕之・加々美康彦（編）/2012年

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等
書名／著者／発行所（発行年）

魚をとりながら増やす/松宮義晴/2001年

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

出席と課題で評価する。

◆オフィスアワー

毎週月曜日の午後、研究室で質問を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

自ら積極的に授業に臨んで欲しい。